

令和元年度 第1回博物館協議会 議事録

日時：令和元年6月11日（火）13：30～15：00

場所：八戸市庁本館3階 第1委員会室

出席委員(10名)

議長 新原 秀郎 (会長)
工藤 竹久 (副会長)
加藤 真人
有馬 克美
川口 桂子
滝尻 善英
田端 良子
鈴木 規夫
野田 明広
鈴木 善美

事務局出席者(9名)

伊藤 博章 (教育長) 委嘱状交付後退席
石亀 純悦 (教育部長)
橋本 淳一 (教育部次長兼教育総務課長)
古里 淳 (博物館館長)
竹洞 一則 (資料館館長)
下村 恒彦 (博物館副館長)
中尻 貴之 (資料館主事兼学芸員)
山野 友海 (博物館主事兼学芸員)
中村 隼人 (八戸市史跡根城整備嘱託職員)
淵沢 裕子 (博物館非常勤主事)

【案件（7）平成30年度事業実施報告 質疑応答】

議長：ありがとうございました。それでは、ご意見、質疑はございませんでしょうか。はい、加藤委員。

加藤委員：昨年の特別展、拝見いたしました。エジソンの発明品と言えば、子どもたちが喜びますが、特に私としては、丹後平古墳群が国重要文化財に指定されたタイミングで、非常に立派な特別展を開催していただき、是川から始まる八戸の歴史は奥深いと感じました。

そういえば、八戸は産業の街とか水産業の街とか言われますけれども、非常に古い歴史を持っているということ、改めて感じました。南郷の方では、昭和の戦争と平和の問題を扱っているようで、関心が非常に高いと感じました。今後も頑張りたいと思っております。以上です。

議長：ありがとうございます。その他、ありませんでしょうか。はい、滝尻委員。

滝尻委員：5ページの下の方ですが、先ほどの説明の中で、トースターでパンを焼いて食べさせたということですが、子どもの口の中に入るものは、非常に危機管理が大切というか。学校の文化祭でパンを作るとか、ワッフル作るだけでも保健所に来てもらって、もし後で何かがあった時に大変なことになりますので。

これ、前にご飯でしたか、米展の時にも何か出しましたよね。ということで非常にこういうことをやるとインパクトが強くて良いのですけれども、ただ何かがあった時のこと、危機管理を考えれば、保健所の検査が入ったのですか。食品検査が入ったのですか。

事務局：一応、保健所に問い合わせましたが、無料で配布する場合は特に規制はないということで、やらせていただきました。

滝尻委員：そうですか。そういうことであればよろしいかと思えます。すごく気になる所ですから。保健所がO.K.を出しているのであれば、良いと思えます。

はい、ありがとうございます。

議長：はい、その他ございませんでしょうか。

今、学校でもいろいろ食べさせるということで、そういう時は必ず保健所に届けますが、無料だと良いということを知りました。大変ありがたいことだと思います。

幼稚園とか保育園、小学校ではバザーとかよくあると思うのですが、そういう時は保健所に届けは出しているのですか。

鈴木(規)委員：はい、そういう時は、届けを出しております。毎回厳しくなっ

ていると感じます。

議長：はい。田端委員。

田端委員：先日、ハサップということで、私たちが食品を提供する時に、私たちの前の企業が、ハサップの資格を取っているかということで、私たちもどうなのだろうかと。購入して販売する時に、ハサップの検査を受けているかどうかまでみられなかったりするので、十分注意が必要なのだと初めて認識しました。

議長：その他、何かありませんでしょうか。よろしいでしょうか。はい、有馬委員。

有馬委員：エジソン展では、借りてきた資料だけの展示ではなく、関連した八戸市内の資料も一緒に展示していたところが良かったと思っていました。あとは、体験できるような展示や、借用する展示物がだんだん増えていって、大変良い傾向だと思っていました。以上です。

議長：ただ展示するだけではなく、子どもたちが触って、食べてとか、そういう体験がたくさんあると子どもたちが喜んで、その中から何かを学んでいくと思います。そういうことで、博物館では工夫していると、大変ありがたいと思っております。

その他、ありませんでしょうか。はい、鈴木(規)委員。

鈴木(規)委員：はい、質問です。体験学習というのがあったのですけれども、15 ページで、出前授業というのがあります。各小学校で「昔の暮らし」という所で、体験学習に取り組んでいるということですが、これは、具体的にどのような体験をしているのでしょうか。

事務局：はい、体験の内容につきまして、今は小学校3年生で学習「昔の暮らし」の単元に合わせています。「着付け」の体験は、昔の「もんぺ」や「ももひき」を履いてみる体験、これはクラスの代表の子に着てもらって、皆で見たり触ったり観察するというものです。このほかに石臼を使ってお米を挽いてみる体験、水桶を天秤で担いでみるという水汲みの体験、たらいと洗濯板を使った洗濯体験。これら3つは、クラス全員が体験できるように用意をして行っております。

また、試験的ではありますが、少人数で5年生や6年生の高学年向けとしまして、学校向けに何か体験ができないかと、実物の資料を見たり触ったりしながら観察をするというものを行っている所です。例えば土器の観察とか、実際の火縄銃の観察とか、実際に触って重さや質感を感じたりしながら、学習に役立てたりと考えています。

出前授業で一番多いのは、「昔の暮らし」の体験学習になっております。以上です。

議長：はい、ありがとうございます。

そうですね。小学校では3年生に「地域の学習」があります。それで昭和の電化製品とか、そういうものの体験とか、5～6年生は歴史ですので、先ほど説明があったように土器の展示を触ってみるとか。博物館にも入り口の左側の奥に土器が置いてありますが、そういうふうに体験できるということですね。博物館はただ展示するだけではなく、体験できるというコンセプト、そういう機会をたくさん小学校では捉えていただければと思います。

3年生は多いですけども、5～6年生もそういう所を活用できれば、博学連携（はくがくれんけい）の一助になると思いますので、よろしく願いいたします。

その他、ございませんでしょうか。

野田委員：質問ですが、16 ページです。中学校の「さわやかグッジョブウィーク」ですけども、具体的にどのような体験をしているのでしょうか。

事務局：「グッジョブウィーク」の内容につきましては、大きく言うと博物館に関わることをそれぞれの形で、例えば資料整理の補助的なお手伝いとか、資料カード・資料台帳の整理のお手伝いをしていただくとか、併せて図書整理、あるいは受付の補助。点検したり、解説シートが足りなければ足すとか、館内を見回るような仕事もありますので、そういったものに補助的に入っていただいて、博物館の裏側の仕事を少しご紹介するような形でやっています。

議長：はい、ありがとうございます。

「グッジョブ」は、前は5日間ぐらいでしたが、今は3日ですか。

野田委員：基本的には4日ですけども、できなければ3日ということです。

議長：だんだん短くなって、「グッジョブ」の体験ですけども、子どもたちの感想とか聞いていますか。

野田委員：自分の学校は、行っていないので、どういう状況かなと思ひまして、興味があつて聞きました。

議長：どちらかという、近い所の学校ですけども。いろいろ経験を積んでいくことは、将来の学芸員の養成にもなりますので、ぜひ、いろんな学校が取り組んでいただきたいと思ひます。距離的な問題があると思ひますが、ぜひ、そういうことを考えていただければと思ひます。南郷の資料館で島守中学校も良いですし、また中沢中学校でも良いですので、そういう経験を積んでいただければと思ひます。

はい、よろしいでしょうか。それでは、次に進みたいと思ひます。

【案件（８）令和元年度事業計画 質疑応答】

議長：ありがとうございます。これまでの説明について、ご質問、ご意見をお聞きしたいと思います。今年度の事業について何かございませんでしょうか。はい、鈴木（善）委員。

鈴木（善）委員：南郷資料館の「写真家が捉えた昭和のこども」の「昭和の遊びを体験しよう」で、「ベイごま」は小さいものですよ。私たち湊の人間はそういった「こま」を使ったことがないですよ。これくらいの大きさの金物で作った「こま」で遊んでいたの、「ベイごま」にぜんぜん親しみがないのですよ。だから、他の地域でもやっているのですか。町の方々はどうですか。

議長：「ベイごま」は鋳物の、こんな小さいものでしょう。

鈴木（善）委員：はい。私たちはこれくらい、直径6cmの鋳物で作ったやつをぶつけて遊んでいたのですよ。だから、こういう小さいこまに親しみがないものですから。三日町方面の町の子どもは遊んだのですかね。それを確認したいのですがどうですか。

議長：ないのではないですか。加藤委員どうですか。

加藤委員：私は、三戸生まれだから、こんなことをあんまりやらなかった。

議長：私は、子どもの頃、東京でやっていました。ゴム合羽を乗っけて、ビーンと弾けたら勝ち、という遊びはやったことがある。

鈴木（善）委員：確かに「ベイごま」は昭和の遊びと言われればそうですけれども、私たち湊の人間にとっては全然親しみどころか、見たことも遊んだこともなかったのですから。東京ではやっていたそうだったけれど、八戸は皆そうだったのかと思いましたので。分かる方がいらっしゃったら教えて欲しいと思ひまして。

鈴木（規）委員：父が常海下だった。もう亡くなったけれども、80歳だったので、ちょうどその頃だと思います。やはり「ベイごま」は知らない、大きい「こま」だったと言っています。街中もそうだったと思います。

鈴木（善）委員：「ベイごま」も良いのですけれども、当時30年代に生まれた者たちが、そういったもので遊んでいたことが見つければ、そういったことも展示して見せて、遊んでほしいと思います。

議長：メンコも東京と八戸は違うのですよ。東京のものは長方形なのですよ。相撲の絵が描いてある、だから昔の相撲取りの写真が刷ってある。

八戸は真ん丸で、メンコという。東京は細長いですよ。

工藤委員：そういう違いを教えるのも面白いかもしれませんね。

議長：そうですね。地域によって違うから、違いが分かれば面白いかもしれません。

せんね。

滝尻委員：呼び方も違いますよね。「バッタ」だったり、「パッタ」だったり。

まちはバッタ、浜はパッタでしたよね。

鈴木(規)委員：同じバッタでも、湊地区と白銀地区だとルールが違っていた。

滝尻委員：前に八戸市教育委員会の方から、「昔の遊び」という本を出しましたよね。あれを見れば絵も付いていますし、全部出ていますから。参考にすれば良いと思います。

議長：はい、いろいろな遊び方があります。

その他何かありませんでしょうか。

滝尻委員：私から、前の会議でも話をしましたが、今年度の計画はこれで良いのですけれども、2ページの所です。市民講座が4回あります。だんだん予算も削られて、いろいろな事業の精選というのが図られている昨今ですので、市民講座4回も必要なかと思っているのです。

というのは、市立図書館の方で市史講座を7回やっています。市史発行のためということで。この前、島守先生が倒れたので、私が急遽、穴が開いた所にピンチヒッターをした訳です。やはりこれも計画として立っているものですから、誰かがやらないといけない。来年度を考えれば、予算を削られるからということもありやったのですが、図書館でもやっています。

根城の広場の方でも「おもしろ講座」をやっていますよ。「おもしろ講座」は3回ですか。公民館でも歴史講座をやっていますし、縄文館は縄文館でやっているし、他でも民間では畑中美鈴さんが自由大学で毎月何かやっているし、他にも県民カレッジでもやっているし。あまりにも講座、講演会が多すぎるのです。

そろそろもう4回あるのを2回にしても良いのではないのかなと。内容を充実させれば良いと思います。そういったことをもうそろそろ考える時期がきているのではないかと思っていました。

事務局：ありがとうございます。市民講座は少しでも市民に知識を提供しようと思って行っているものでございますけれども、その他に市民講座を11月頃から4回やっている理由の一つに、冬場どうしても来館者数が落ちますので、少しでも冬場に博物館に来てもらいたいということで、4回実施しております。

滝尻委員：この時期に南部町では、楽楽(らら)ホールで後期にかけて毎週土曜日にいろいろな講座をやっていて、それとぶつかっています。他の市町村でも講座を開いています。

博物館でも特別展をやれば必ず中央から講師を呼んでやっていますから、そういうこともあって、せっかく講座を開いたのに、来てくれる人が少ないと

というのが、一番気になっている所です。来た人たちに聞くと、南部町の楽楽ホールに行ってきた、というコメントをしている人たちがいます。

議長：はい、ありがとうございます。

滝尻委員：早急にという訳ではないので。

議長：講座数が増えましたね。博物館と根城の広場の講座は、昔は博物館でやっていたものを、根城の広場でやろうと、できるものなら移してやろうということで、一体の考え方で実施したのが始まりです。

そして根城の広場で出来るようなもの、例えば鍛冶の鑿（つば）作りとかやりましたね。そういう風に根城の施設でできる講座を加えてやりました。ですから、この根城史跡の講座と博物館は一体化していたのです。でも市民講座が4つですと多いかなと思いますけれども、その辺はまた事務局側で考えていただきたいと思います。

事務局：はい、ありがとうございます。

議長：他にございませんでしょうか。

工藤委員：3ページの下の所に、保存整備の収蔵資料保存修復事業とありますが、丹後平古墳群出土品で、鉄製品、保存整備、保存処理をしても、どうしても長い間に少しずつ傷んでくるのですよ。だから定期的に、特に国指定文化財だとできるだけ劣化を止めなければならないので、保存処理を定期的に行ってほしいと思うのですけれども。ここに書いてある事業というのは、どういう中身ですか。ちょっと知りたいと思います。

事務局：はい、今回重要文化財に指定されて、鉄製品の保存処理ということで、国の補助事業を受けながら、継続的に進めていくことになると思います。そういう事業です。

工藤委員：継続事業であれば、良いと思います。単年度だとそんなにできないものですから。

議長：その他、ありませんか。はい、有馬委員。

有馬委員：市制90周年の展示と、南郷の展示と何か共通するものがあるのではないかと思いますので、展示したところに「より詳しく知りたい方は、南郷にもお出かけください」とか、メッセージとか出しておくとか。

常設展でも「もっと詳しく知りたい方は是川縄文館にもお出かけください」というような案内もしていただくとともに考えていただければと思います。

アクセスの案内、バスは何処から、とかもあると良いと思います。

また、もっと詳しく知りたい方に受付で資料をあげるとか、ガイドをしてあげるといいのではないかと考えていました。

クマの展示ですが、これは触れるのですか。できれば触れるようにしてもらえると良いと思います。

クマ展ですが、何でクマなのかなと思うところがあります。クマを取り上げたら次はクジラを取り上げて欲しいです。クジラの方がもっと身近なテーマではないかと思います。今、捕鯨が話題になっていますが、八戸を捕鯨基地するとか話が出ていますから。今までやったことはありますか。

事務局：クジラ展はないです。

有馬委員：できましたら、次に考えていただければと思います。

工藤委員：博物館に「クジラ橋」の一部が寄贈になっていますよね。収蔵資料の活用という点からも、よい提案ではという気がします。

滝尻委員：「クジラ橋」があるのですか。

工藤委員：一部があります。

滝尻委員：それは知らなかった。

議長：はい、よろしいですか。

特別展の連携。博物館と南郷資料館との連携。また、その他の施設の連携。そういうものを作って、活性化を図ってもらいたいという意見が出ましたけれども。これは事務局の方でしっかりと考えていただきたいと思います。今、クジラの話が出ましたが、八戸はクジラで始まったようなところもありますので、次回考えていただければと思います。

その他は、ありませんでしょうか。

加藤委員：はい、博物館協議会の発言とはずれるかもしれませんが。ボランティアの立場から感想を申し上げたいと思います。

一つは、博物館、広場とも入場者数は2万人弱位。この中では私たちのグループは5,000人という数字を実績として出しています。素人集団としては頑張ってきたと思っています。ただ、今年は大幅な減少が予想されます。もしかすれば2割くらい減るかもしれません。いろいろな原因があります。一つは子どもさんがかかり減っているということ。学校の方々のお出でが非常に少ない。今日は学校の代表の方もいらっしゃいます。子どもさんたちがお城に関心があるのかないのかが分からない。歴史を何年生でやっているのかも分からない。城といえばどうしても天守閣というイメージがあるので、その辺から分かり易く説明したいと思う。どうして根城が八戸のルーツだと言われるのかも、知って欲しいなと思うし。可能な範囲でぜひ根城に来て欲しいと思います。

もう一つは、なぜ減少しているかという点、城に対する興味はまだブームが続いておりましたが、非常に熱心ですが、分散化をしております。平成18年に日本100名城が選ばれました。それが根城にいっぱいお客様が来る原因でした。一昨年、続100名城が選ばれて、九戸城と浪岡城が選定されました。ツアー会社は先々を行っているもので、二戸市には九戸政実という物語があ

るものですから、ツアーが今年は半分くらいになっております。これは仕方がないことで、それぞれ共存共栄と言いますか、南部町は南部氏でやっているし、三戸町は三戸城でやっているし、国の指定を目指してやっていると思います。九戸城はもちろん二戸市で頑張っている。逆に、客が増える・増えないは別として、折に触れて南部町も二戸市とも三戸町とも連携していくという動きがあっても良いのではないかと思います。

われわれ素人集団で、勝手なことを言っていますが、我々は幸運なことに博物館の皆様から新人養成講座とか、研修旅行とか、自主研修とか、博物館の皆様にお世話になっており、ありがたいと思っております。ぜひ貴重な文化遺産である根城の広場を皆様に知ってもらうために、これからも微力ながらも頑張っていきたいと思っております。

今年度の事業の中でも、小中学生向けの城歩き講座とか、兜の折り紙を折るとか、子どもたちが興味を持っていただければ、郷土に対する気持ちを持ってもらえるのかなと思っております。事業計画にどうのこうのというものはありません。

もう一つ申し上げれば、数年前に「かたづの！」という書籍が出ていまして、今年は里中満智子さんが漫画に描いたことで、広まっております。90周年記念事業で10月6日には中島京子さんがブックセンターの事業で八戸に来るという話もちらっと小耳にはさんでおります。我々は観光の立場ですから、博物館の方向とは違うかもしれませんが、人が来ないことにはどうしようもないので、全国でも珍しい女の殿様がいたということで、そういったことを利用するとか、日本100名城をもっと宣伝するとか、そういったことも大切ではないかと思います。

もう一つ申し上げれば、力不足の点もあります。外国人がすごく増えているわけです。正確な数字は把握していませんが、一昨年辺りに個人で来ているお客様で、200名位ではないかと思います。残念ながら英語が堪能ではありませんで、ガイドが思うようにいきませんで、非常に申し訳ないと思っております。その辺のスキルアップについても、学芸員の皆様のご支援をいただきたいと思っております。

議長：はい、ありがとうございます。

100名城で石垣とか天守閣がないとなかなか。でも数年前にある方が、100名城の中でも中世の城を巡っているという方もいましたからね。まだまだお城に対するブームが続いているのではないかと思います。そこで、九戸、三戸というのがあるのであれば、そのツアーみたいな事業があったら。

加藤委員：いいですか。

日本100名城のスタンプラリーが流行しているようで、今まで十何年で。た

だし100名城歩くとなると、金も時間も健康でなければならないわけです。大体2,000名位達成している。昨年、10月30日に静岡県の方々が根城で100名城達成したということで、早く情報が入ったものですから、デーリー東北さんに電話したら、取材していただいて、我々がささやかな歓迎をした訳です。どうして根城を最後に選んだのですかと聞いたら、静岡新聞に清心尼の記事が載ったということを知りまして、清心尼の存在が全国的になってきている、ということでびっくりしました。静岡県には女性の城巡りのグループがあるようです。去年は良い年でした。

議長：子どもたちにもお城の良さを知ってもらいたいと、今、根城を管理している委員さんにお伺いしました。

その他、ございませんでしょうか。

滝尻委員：今、加藤さんの話で、人が来るという話で、御城ブームなので御城印の発行というのは博物館の管轄ですか。

事務局：はい。博物館でも計画しておりましたが、予算の関係などもありまして、今、根城史跡保存会とタイアップしまして、進めようかと思っているところです。

滝尻委員：発表できない段階ですか。

議長：はい、間もなくということ。

川口委員：清心尼のことで、いろいろな新聞社の方と意見交換する会があって、たまたま愛媛新聞の女性の論説委員の方が、女の城主がいたということの中島京子さんの小説を読んで初めて知って非常に興味を持って、八戸まで来てコラムを書いたという話を聞いたのですよ。愛媛の方が初めて八戸を知るきっかけになったのが「かたづの！」ということで、すごい話だなと思いました。

先日、別な話なのですが、瀬戸内海を旅行案内されている村上水軍の末裔の方から聞いたのですけれども、人が旅をするのには、ストーリー性がないと旅に出た楽しみがないということで、八戸のストーリー性は根城南部のお城にはたくさんあるはずなので、それをもっと物語性を打ち出して宣伝したら、お城に来たらイメージが膨らむのではないかなと思います。それで中島京子さんが「かたづの！」書いた、というのも取材で伺った時に話していただき、ストーリー性は根城にもそれがあるということ、こちらから仕掛けていくというのも面白いかなと。九戸政実もそうですし、考えていただければと思います。

加藤委員：ありがとうございました。

滝尻委員：お金のかけ方が違うと思うのですよ。女城主ということで、日本に3人とよく言われますが、直虎（なおとら）と静岡の浜松、それから柳川の

闇千代（ぎんちよ）がいるのですよ。私は先々月、柳川に行ってきたのです。そしたらすごかったです。「闇千代をNHKの大河ドラマに」という幟が立っているのです。パンフレットも出しています。これだと清心尼は勝てないなど思いました。お金のかけ方がもう違いますね。八戸市がもっとこの清心尼に力を入れてくれれば変わってくると思います。

議長：はい。館長さん。そういうことだそうですので、よろしくお願ひしたいと思ひます。

その他、ございませんでしょうか。はい。

有馬委員：人口がどんどん減っている中で、入館者数も右肩下がり、だいたいどこでもそうなのでしょうが。博物館というのは地域の宝、地域の自慢できるものを収蔵して、また皆さんに見ていただく、という役割を持っている。ふるさと自慢、故郷への愛着心を育むというか、その役目があるのだと思うのですけれども。そういう意味で夏休みとか、冬休みの学校の長期休みのタイミングで、親子連れで来館する人が増えるというような企画を打ち出してもらうことは良いことだなと思ひます。

日記の所を見ますと、三戸郡とか、岩手県北とか、そっちの方の小学校とか、見学者も受けているのですが、市内の見学というのはあまり活発ではないというか。前の会議の時もそういう話が出ていましたが、学校行事のなかにこの博物館を見てもらう、組み込んでもらうというのも考えてもらいたいなど思ひます。とりあえずというのもなんですが、根城地区の小中学校だけでも必ず来てもらう、というようなことも考えてもらうと良いじゃないかなと思ひます。以上です。

議長：行事の精選で、週休2日制になって、授業確保ということで大変厳しいというので、遠足とか減ってきています。まあ社会科見学ということも兼ねていろいろやっていますけれども、その辺もカバーしてやっていかなければならないのかなと思ひます。私も、体験しないとわからないという実物学習は、非常に大切だと思ひております。

そういうことで、部長さん、次長さん、館長さん、よろしくお願ひします。でも、一生懸命頑張れば増えると思ひます。南郷歴史民俗資料館はここ2～3年は残念ですが増えていませんね。でも、少し増えているのは企画が変わったからかなと思ひます。今まであった資料をうまく整理して展示しているということで、昭和ということもメインにして資料をやっている訳ですから。そういう意味で、お父さん、お母さん、お爺さん、お婆さん、そういう方が見に来ると、孫を連れてきたとか子どもを連れてきたとか、そういうことで増えるのではないか思ひております。そういうことで、よろしくお願ひいたします。

その他、ございませんでしょうか。

「(3) その他」も加藤委員からお話しいただきましたので、事務局の方にお返しします。

ありがとうございました。